学校番号	３１６

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版「高校日本史」　（山川出版社）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・幕末から太平洋戦争までの日本の歴史を学ぶことで、現代の日本社会が抱えている課題の背景を知り、現在の日本の課題をより深く理解し、歴史的な思考力、公正な判断力、豊かな表現力を身につけてもらいます
・教科書を使用して、プリントに板書を記入していく授業をおこないます。
・毎回のプリントが完成するごとに、プリントを提出してもらいます。
・毎学期末のテストの際に、授業でしたプリントをファイルに綴じて提出してもらいます。

２　学習の到達目標

・日本の幕末から太平洋戦争までの歴史を、地理的条件や世界の歴史とも関連付けて理解する。
・幕末から明治・大正・昭和にかけての社会の変遷を総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深める。
・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	・幕末から太平洋戦争までの日本の歴史に対する関心を高め、歴史上の諸問題について問題意識を持って意欲的に追求できているか。	・幕末から太平洋戦争までの日本の歴史から課題を見いだし世界史的視野にたって多面的・多角的に考察できているか。	・史料や情報を効果的に活用することを通じて歴史的事象について追求する学び方を身につけているか。	・幕末から太平洋戦争までの日本の歴史についての基本的な知識を身につけているか。
評価方法	・観察 ・提出物	・提出物 ・定期考査	・提出物 ・定期考査	・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近代国家の成立	・開国と幕府の滅亡 ・立憲国家の成立 ・大陸政策の展開	○	○	 ○ ○	○ ○	a:開国前後の国内外の情勢への関心を高め、意欲的に研究しようとしている。 b:ペリー来航によって幕府が政策転換を迫られたことを考察し、自らの考えを適切に表現している。 c:歴史史料や写真から当時の社会の様子を読み取っている。 d:開国から明治維新までの基本的な知識を身につけている。	提出物 定期考査 観察
2学期	近代産業の発展と政党政治	・近代産業の発展 ・第一次世界大戦と日本 ・政党政治	○	○	 ○ ○	○ ○ ○	a:日本の産業革命に関する関心を高め、意欲的に研究しようとしている。 b:日本の産業発展について、独占資本と寄生地主制という視点から考察し、自らの考えを適切に表現している。 c:様々な写真史料などから、当時の社会情勢を読み取っている。 d: 明治時代末から大正時代にかけての基本的な知識を身につけている。	提出物 定期考査 観察
3学期	満州事変、太平洋戦争から現代の日本	・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・太平洋戦争 ・戦後改革、高度経済成長から現在	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	a:1920～30 年代の日本への関心を高め、社会の変化について意欲的に研究しようとしている。 b:長く続いた不況が日本の経済政治へ与えた影響を考え、戦争の時代へと進んでいった経緯について考察している。また戦後改革から東西の対立を背景に、日本が復興、発展していった経緯について考察している。 c:満州事変・日中戦争・戦時下の日本の写真などから、当時の社会情勢を読み取っている。 d:日本社会のすべてを戦争が巻き込んでいったことについて、基本的な知識を身につけている。また、占領下の復興から発展までの領土に関する事項を含む様々な事象について、基本的な知識を身につけている。	提出物 定期考査 観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。